

新庁舎整備に関するアンケートの参考資料

1 新庁舎整備に向けたこれまでの検討状況について

(1) 大磯町役場本庁舎整備庁内検討会（平成30年10月～令和2年3月）

委員は職員で構成され、施設規模、建設地、複合化等について調査・検討を行い、令和2年4月、検討結果を報告書としてまとめ、策定しました。

新庁舎整備のポイント

建設地：現庁舎敷地を選定

複合化：隣接する保健センターを複合化し、防災対策の充実として消防本部機能を集約

(2) 新庁舎整備基本構想等検討委員会（令和2年7月～令和4年3月）

新庁舎整備基本構想（案）の策定にあたり、調査や審議を行う検討委員会を設置しました。委員は学識経験者、公募町民、町内の関係団体又は企業代表、行政関係機関など9名で構成され、現在まで2回検討委員会を開催しています。

(3) 新庁舎建設等特別委員会（令和2年9月～）

大磯町議会に新庁舎建設等特別委員会が設置されました。

2 現庁舎の場所



大磯町役場本庁舎

竣工：昭和46年5月（今年で竣工50年）

構造：鉄筋コンクリート造

規模：地上5階、地下1階建

大磯町保健センター

竣工：昭和57年3月（今年で竣工39年）

構造：鉄筋コンクリート造

規模：地上2階

（裏面に続きます。）

3 現庁舎の課題

(1) 耐震性の不足

現庁舎は、昭和 62 年に耐震診断を実施しました。その後、庁内組織・議会での検討を重ね、移転を含む庁舎建替えを行うこととし、それまでの 10 年程度を使用するための緊急対策として平成 13・14 年に防災対策工事(耐震補強)を実施しました。しかし、緊急対策ということで工事後においても大地震発生時に安全であると考えられている耐震基準を満たさない階があります。大地震の際に、災害応急活動や災害復旧活動に大きな支障が生じる恐れがあるため、早急な対応が必要です。



本庁舎の耐震ブレース

(2) 施設の狭あい化

現庁舎は多くの町民が利用する 1 階窓口の待合スペースが十分に確保されておらず、相談などの個人のプライバシーへの配慮が必要な業務も困難な状況が見受けられます。



本庁舎 1 階窓口・待合スペース

(3) 施設の老朽化

現庁舎は、老朽化が著しく、外壁コンクリートのはがれや小さなひび割れ、落下の恐れのある箇所を発見しては補修を繰り返しています。また、古くなった排水管の補修など各種設備等も小規模な修繕を繰り返して対処している状況です。

(4) バリアフリー・ユニバーサルデザイン

公共施設として、高齢者や障がい者等に配慮したバリアフリー化と、誰もが利用しやすい施設とするユニバーサルデザインの観点が必要とされるなか、特にトイレは、保健センターに「みんなのトイレ」があるものの、本庁舎のトイレは狭く、部分改修では対応に限りがある状況です。



保健センター 1 階カウンター

そのほかにも、**防災拠点としての対応、高度化する情報通信技術等への対応、駐車場の不足、環境・景観への配慮**などの課題があります。また、最近の新型コロナウイルス感染症の影響から、社会の大きな変化に対して、柔軟に対応できる庁舎のあり方が求められています。

4 お知らせ

広報おおいそ 7月号にて、新庁舎整備に関する記事を掲載します。

今後も町民の皆様に向けて情報発信、ご意見を伺いながら整備を進めていきます。